国立科学博物館主催 第 38 回 植物画コンクールの講評について　2021.12 s　koike

https://www.kahaku.go.jp/procedure/press/pdf/766707.pdf　文化庁 2021 年 12 月 17 日 14 時 00 分

1. 要綱

趣 旨：植物画を描くことによって、植物のすがたを正しく観察し、植物をより深く理解するとともに、
植物に対する愛情を深め、人と植物のつながりにも高い関心を持っていただくことを目的とする。

作品規格：一人1点、未発表のオリジナル作品、用紙のサイズは B4 判、または八ツ切、画材は自由。
受付期間：9 月 1 日～10 月 31 日
審査：植物学・美術・教育の立場から、観察の注意深さ、表現の正確さ、芸術的な美しさなどを基準として審査。
審査員：西野 範夫 元上越教育大学学校教育学部教授
邑田 仁 東京大学大学院理学系研究科特任教授
遠藤 一支 土浦市立土浦第二中学校教諭
石川美枝子 植物画家
細矢 剛 国立科学博物館筑波実験植物園長
田中 伸幸 国立科学博物館植物研究部

2. 講評の分析

2-1.講評のエッセンス：一般の部、中学・高校生の部

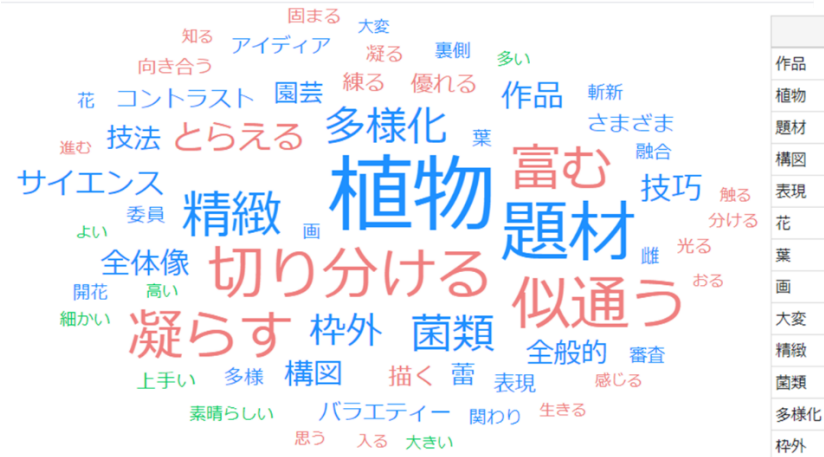
・葉の裏側が実によく描かれており、全体の配置がとてもよい作品である。
・小学生と同様に、これからの植物画の可能性に期待したい。
・細かいところまで丁寧に描かれており、よく植物の特徴をとらえている作品である。
・サイエンスとアートが上手く融合されて全体像が描かれた、素晴らしい構図の作品である。
・植物と菌類の関わりがよく表現されている。
・相当練られたと思われる構図となっている。
・いろいろな植物を題材とした作品があり、多様化が進んでいることが感じられた。
・ハイライトが入り、コントラストも上手く表現されている。
・思わず触ってみたくなるほど精緻に描かれた絵で構図も素晴らしく、技巧を凝らしたさまざまな要素が入った作品である。
・植物画の優れた技法や凝った構図などにより、描きたいイメージが上手く表現されている作品が多く、全般的にレベルが高かった。

2-2.講評のエッセンス:小学生の部

・大人とは違った視点でよく植物を観察していると感心する。
・作者の表現したい花の絵となっていると思われる。
・複雑な花をよく観察し考えて描いており、構図がとてもよい作品である。
・これからの植物画の可能性や広がりに期待している。
・特に花の特徴をよくつかんでおり、色合いもよい。

2-3.AI テキストマイニング

Word Cloud



単語出現頻度

名詞	スコア	出現頻度
作品	1.80	12
植物	6.65	6
題材	5.16	4
構図	1.55	4
表現	0.60	4
花	0.28	3
葉	0.54	2
画	0.31	2
大変	0.03	2
精緻	3.46	1
菌類	2.71	1
多様化	2.62	1
枠外	2.23	1
技巧	1.71	1
全体像	1.58	1

係り受け解析

名詞	形容詞
作品	多い
全般的	高い
レベル	高い
構図	素晴らしい
絵	素晴らしい
大変	よい
バランス	よい

名詞	動詞
植物	向き合う
題材	固まる
傾向	固まる
審査	知る
委員	知る
全体的	富む
バラエティー	富む
技巧	凝らす
アイディア	分ける
花	切り分ける
花	分ける
真ん中	切り分ける
多様化	進む
センス	光る
特徴	とらえる

名詞	名詞
植物	菌類
植物	可能性
植物	特徴
作品	開花
題材	チャレンジ
さまざま	要素
斬新	アイディア
花	センス
雄	雌
サイエンス	アート
アート	融合
菌類	関わり
大変	世の中
世の中	状況
小学生	同様

3. 講評

3-1.一般の部

植物画の優れた**技法**や凝った**構図**などにより、描きたいイメージが上手く表現されている作品が多く、全般的にレベルが高かった。以前は、似通った題材が多く傾向が固まっていたと思われる時期もあったが、今回は審査委員が初めて知った園芸種を題材とした作品もあるなど、全体的にバラエティーに富んだ作品が多く、**多様な題材にチャレンジ**している作品が多いと感じられた。

〔一般の部 文部科学大臣賞〕ヤマユリ 三枝 美樹(神奈川県)

思わず触ってみたくなるほど**精緻に**描かれた絵で**構図**も素晴らしく、**技巧**を凝らしたさまざまな要素が入った作品である。

〔一般の部 国立科学博物館長賞〕ノアザミ 伊藤 みゆき(愛知県)

斬新なアイディアで、花を真ん中で切り分けたような形で、雄と雌の花を描き分けている。相当練られたと思われる**構図**となっている。

〔一般の部 筑波実験植物園長賞〕ツバキキンカクチャワンタケ 佐々木 容子(大阪府)

サイエンスとアートが上手く**融合**されて全体像が描かれた、素晴らしい**構図**の作品である。植物と菌類の**関わり**がよく表現されている。

3-2.中学生・高校生の部

いろいろな植物を題材とした作品があり、多様化が進んでいることが感じられた。大変な世の中の状況ではあるが、応募作品には、生きた**植物としっかりと向き合って描いた**と思われる作品が多くあった。小学生と同様に、これからの植物画の可能性に期待したい。

〔中学生・高校生の部 文部科学大臣賞〕アカツメクサ 山本 晃太(奈良県)

左の枠外から大きく描かれている花など、センスが光る作品で、小さな蕾が開花するまでの**時間の経過**も上手く表現されている。

〔中学生・高校生の部 国立科学博物館長賞〕メドーセージ 矢口 舞(愛知県)

細かいところまで丁寧に描かれており、よく**植物の特徴**をとらえている作品である。葉をはじめ**色のバランス**も大変よい。

〔中学生・高校生の部 筑波実験植物園長賞〕ビワ 加藤 里奈(東京都)

ハイライトが入り、コントラストも上手く表現されている。**葉の裏側が実によく**描かれており、**全体の配置**がとてもよい作品である。

3-3.小学生の部

大人とは違った視点でよく植物を観察していると感心する。植物をただの絵の対象物ではなく、“自分の植物“として描いていることが感じられ、小学生でこのような絵が描けるのは、心が豊かだからだと思われる。これからの植物画の可能性や広がりに期待している。

〔小学生の部 文部科学大臣賞〕ザクロ 藤原 詩(宮城県)

ザクロを描くのは難しいが、しっかりと観察し素直に表現することにより、花や葉を上手に描けた作品である。特に花の特徴をよくつかんでおり、色合いもよい。

〔小学生の部 国立科学博物館長賞〕ボタン‘八千代椿’ 番澤 実希乃(東京都)

複雑な花をよく観察し考えて描いており、構図がとてもよい作品である。作者の表現したい花の絵となっていると思われる。

〔小学生の部 筑波実験植物園長賞〕エゾノコリンゴ 川内谷 遥花(北海道)

表現が難しい白い花や葉などをしっかりと観察して素直に描いた非常によい作品であり、純粋さが感じられる。